

日本気象学会2015年度春季大会 出展・協賛・協力企業・団体等一覧

今大会の開催に当り、以下の企業・団体からご出展・ご協賛・ご協力を頂きました（2015年3月31日現在；50音順）。厚く御礼申し上げます。（*はポスター会場内に併設されるブースにて展示を行う予定の企業・団体です。）

< 出展・協賛 >

株式会社朝倉書店*
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構*
英弘精機株式会社*
HPCシステムズ株式会社*
荏原実業株式会社*
キーコム株式会社*
サイバネットシステム株式会社*
全日本空輸株式会社
ダイヤモンドエアサービス株式会社
日本環境計測株式会社*
日本気象株式会社*
一般財団法人日本気象協会*
株式会社ニューテック*
株式会社日立パワーソリューションズ*
三菱電機特機システム株式会社*

< 協力 >

一般社団法人つくば観光コンベンション協会
つくば市

日本気象学会 2015年度春季大会

会期：2015年5月21日（木）～24日（日）

会場：つくば国際会議場（エポカルつくば）（茨城県つくば市竹園2-20-3）
(<http://www.epochal.or.jp/>)

大会実行委員会担当機関：筑波大学，宇宙航空研究開発機構，国立環境研究所，産業技術総合研究所，農業環境技術研究所，防災科学技術研究所

大会委員長：田中 博（筑波大学 生命環境系）

当日の会場への連絡先：大会実行委員会事務局（つくば国際会議場小会議室301）
TEL 029-861-0613（大会期間中のみ有効）
※大会参加者への伝言は，受付付近の掲示板上に掲示します。
取り次ぎはいたしませんのでご承知おきます。

会場案内図

交通の案内



- つくば駅・つくばセンターまで
 - ・ つくばエクスプレス (TX)：「つくば」行きに乗車，終点「つくば駅」下車。
 - ・ JR常磐線：「土浦駅」西口2番バス乗り場，「ひたち野うしく駅」東口1番バス乗り場より，「筑波大学中央」または「つくばセンター」行きバスに乗車，「つくばセンター」下車（ともに所要時間約25分）。
 - ・ 高速バス：東京駅八重洲南口の高速バス2番のりばより（つくば号）「筑波大学」または「つくばセンター」行きに乗車，「つくばセンター」下車（所要時間約65分）。羽田空港第1，第2各ターミナル1階到着ロビー13番のりばより，「つくばセンター」行きに乗車，終点「つくばセンター」下車（所要時間約80分）。
- つくば駅・センターからつくば国際会議場まで
ペDESTリアンデッキ（歩行者専用道路）に昇り，直進（徒歩約10分）。

大会行事予定

A会場 : 大会議室101 (1F)
 B会場 : 大会議室102 (1F)
 C会場 : 中会議室201 (2F)
 D会場 : 中会議室202 (2F)
 ポスター会場 : 多目的ホール (1F)
 (企業展示会場・リクルートブース併設)

総会・記念講演・シンポジウム : 大ホール (1F)
 受付 : エントランスホール (1F)
 大会事務局 : 小会議室301 (3F)
 懇親会 : 大会議室101・102 (1F)

| | | A会場 | B会場 | C会場 | D会場 |
|---------------|-----------------|--|--|---|---|
| 5月 21日 (木) | 09:45～ 11:45 | 専門分科会 (10, A101～A110) 「次期静止気象衛星 「ひまわり8号」がもた らす未来の気象学」 | 専門分科会 (12, B101～B112) 「ブリューワー・ドブ ソン循環研究の現状と 今後の展望」 | 専門分科会 (9, C101～C109) 「気象庁データを利用 した気象研究の現状と 展望」 | 専門分科会 (11, D101～D111) 「気象レーダー60年の 歩みと将来展望」 |
| | 11:45～ 12:45 | ポスター・セッション (40, P101～P140) | | | |
| | 13:45～ 17:00 | 専門分科会 (15, A151～A165) 「地球環境変動観測ミ ッションGCOMによる 全球規模の大気・生態 系・雪氷・水循環変動観 測計画」 | 専門分科会 (18, B151～B168) 「中層大気研究の最前 線」 | 専門分科会 (12, C151～C162) 「大気と海洋のデー タレスキューの現状とそ の利活用」 | 専門分科会 (8, D151～D158) 「気象レーダー60年の 歩みと将来展望」 専門分科会 (15:15～) (8, D159～D166) 「気候変動が東アジア 域気象に及ぼす影響の 理解に向けて:マルチ気 候モデルデータ解析」 |
| 5月 22日 (金) | 09:30～ 11:30 | 降水システム I (10, A201～A210) | 物質循環 I (9, B201～B209) | 観測手法 I (10, C201～C210) | 境界層・環境気象 (10, D201～D210) |
| | 11:30～ 12:30 | ポスター・セッション (39, P201～P239) | | | |
| | 13:30～ 15:10 | 総会 | | | |
| | 15:20～ 17:30 | 学会賞・藤原賞・岸保賞受賞記念講演 | | | |
| | 18:15～ 20:15 | 懇親会 | | | |
| 5月 23日 (土) | 09:30～ 11:30 | 気候システム I (10, A301～A310) | 物質循環 II (12, B301～B312) | 観測手法 II (7, C301～C307) 気象予報 (5, C308～C312) | 大気力学 (12, D301～D312) |
| | 11:30～ 12:30 | ポスター・セッション (39, P301～P339) | | | |
| | 13:30～ 17:00 | ジュニアセッション (17, PJ15-01～PJ15-17, 11:30～13:30) シンポジウム「地球温暖化の停滞と加速」 | | | |
| 5月 24日 (日) | 09:30～ 11:30 | 専門分科会 (10, A401～A410) 「高解像度全球シミュ レーションが拓く新し い気候・気象研究」 | 専門分科会 (10, B401～B410) 「山岳域の気象・気候 および環境への影響」 | データ同化 (12, C401～C412) | 中高緯度大気・相互作用 (12, D401～D412) |
| | 11:30～ 12:30 | ポスター・セッション (38, P401～P438) | | | |
| | 13:30～ 17:00 | 公開気象講演会 「気象情報のビッグデー タ時代の幕開け」 | 降水システム II (21, B451～B471) | 気候システム II (19, C451～C469) | 台風・熱帯大気 (18, D451～D468) |

発表件数 : 446件 (専門分科会123, 口頭発表167, ポスター156)

当大会予稿集に掲載された著作物については、以下の規程「日本気象学会の刊行物に掲載された著作物の利用について (http://www.metsoc.jp/teikan/MSJ_kitei_copyrightpolicy.pdf)」に準じます。

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは、〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1気象研究所予報研究部内 講演企画委員会 (E-mail: kouenkikaku2015s@mri-jma.go.jp) まで。

講演の方法

一般口頭発表・専門分科会

- ・ 一般口頭発表の講演1件あたりの持ち時間は9分（講演7分・質疑2分）です。
- ・ 専門分科会の発表時間についてはコンピーナーからの指示に従ってください。
- ・ 講演にはPCプロジェクターを使用できます。
- ・ 講演にあたり、予め以下の点をご了承ください。
 - ✓ パソコンは各自で準備して下さい。会場にはプロジェクターおよび接続ケーブルのみを準備します。
 - ✓ セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。また接続が不安な場合は、セッション開始前に会場係に申し出て下さい。
 - ✓ 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をすることがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行

って頂くようにお願いします。

ポスター発表

- ・ 講演者はポスターに表題と著者名を明記して下さい。
- ・ ポスター発表の一人当たり使用可能面積は、縦210cm×横90cmとなっています。
- ・ ポスターを掲示する際には画鋲をお使い下さい。画鋲は会場に用意されています。なお、テープは使用することができません。
- ・ ポスターの掲示可能時間は、大会第1～3日目は09:00～17:30、大会第4日目は09:00～14:00です。会場の都合上、特に撤収は毎日時間厳守でお願いします。
- ・ ポスター会場での機器の使用は、講演申し込み時に予め申し出ていたもの以外は原則として認められません。
- ・ ポスター会場では電源は使用できません。

シンポジウム「地球温暖化の停滞と加速」

日時：大会第3日（5月23日）13:30～17:00

会場：つくば国際会議場 大ホール

司会：田中 博（筑波大学・生命環境系）

趣旨：

過去100年程度の気候の変化には、人間活動に起因する大気中の温室効果気体の増加による温暖化の他に、十年から数十年規模の自然変動が重なっている。自然変動の要因には、太陽放射の変動や火山噴火などの外的要因の他に、気候システムの非線形的振る舞いの中で「ゆらぎ」として生じる内部変動が含まれる。気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の第5次評価報告書によると、近年の地球温暖化は人為的な温室効果気体の増加によるものである可能性が極めて高いと結論付けられている。1990年代の終わりまでは、全球平均気温に急激な温暖化傾向が見られた。しかし、2013年に二酸化炭素濃度が400 ppmを超えてさらに上昇する一方で、1970年代から1990年代まで続いた急激な温暖化傾向は今世紀に入ると減速し、最近の15年間では全球平均気温は横ばい状態が続いている。この現象は、地球温暖化の停滞（ハイエイタス）と呼ばれることもあり、気候科学コミュニティのみならず社会的にも大きな関心を集めてきた。観測された気温変化が、IPCC報告書にまとめられた気候モデル・アンサンブル実験の下限に位置していることから、その原因究明が急がれている。国内の最近の研究によると、過去15年間の温暖化の停滞には、エネルギー収支、海洋熱吸収、放射強制と内部変動の相対的寄与、大気海洋結合系の力学など気候のさまざまな側面が関わっていることが報告されている。温暖化停滞のメカニズム、気候モデルと観測データの不一致、将来予測に対する影響など、どれも明確な結論が得られたわけではないが、加速度的に増えつつある研究成果を現時点で総括し、この現象に対する理解を深めることには意義があると思われる。そこで、今回のシンポジウムでは、温暖化研究および気候力学研究に携わる第一線の研究者に解説をお願いすることにした。このシンポジウムを通して、参加者の皆様に温暖化研究の最前線をお伝えできれば幸いである。

プログラム：

- 1) 「地球温暖化はなぜ停滞したか」
謝 尚平（カリフォルニア大スクリップス海洋研究所）
- 2) 「地球温暖化の「停滞」：地球温暖化研究における意味」
渡部 雅浩（東京大学大気海洋研究所）
- 3) 「太平洋・インド洋における近年の変動とモンスーン」
植田 宏昭（筑波大学・生命環境系）
- 4) 「気候変化の検出と要因分析」
塩竈 秀夫（国立環境研究所・地球環境研究センター）
- 5) 「総合討論」
司会：田中 博（筑波大学・生命環境系）

※各講演時間は質疑応答で40分です。

問い合わせ先：田中 博（筑波大学・生命環境系）

TEL:029-853-6482, E-mail: tanaka@ccs.tsukuba.ac.jp

総 会

日時：大会第2日（5月22日）13:30～15:10

会場：つくば国際会議場大ホール（つくば市竹園2-20-3）

議事次第

1. 開会
2. 議長選出
3. 理事長挨拶
4. 2015年度日本気象学会賞授与
5. 2015年度藤原賞授与
6. 2015年度岸保賞授与
7. 2014年気象集誌論文賞及びSOLA論文賞授与報告
8. 議事
(1) 2014年度事業報告
- (2) 2014年度収支決算報告
- (3) 2014年度監査報告
9. 報告
(1) 2015年度事業計画
(2) 2015年度収支予算
(3) その他
10. 議長解任
11. 議事録署名人の指名
12. 閉会

専門分科会の概要紹介

2015年度春季大会では下記の通り、10件の専門分科会が開かれます。

次期静止気象衛星「ひまわり8号」がもたらす未来の気象学

日時：大会第1日（5月21日）09:45～11:45

場所：A会場

趣旨：2014年10月7日に種子島より打ち上げられた「ひまわり8号」は、2015年中に運用を開始するべく、現在準備中である。同衛星は、可視・赤外放射計のチャンネル数は現行の5から16へと飛躍的に増え、水平解像度も現行の倍、観測頻度は全球で10分毎、特に日本付近では2.5分毎（ラピッド・スキャン観測）へと強化される。これらの機能強化により、気象業務の実利用として、台風や局地的大雨などの顕著現象の実況監視能力の向上や、データ同化を通じた数値予報モデルの予測精度の向上などが期待される。また、気象学の発展の観点からも、地球観測衛星や極軌道気象衛星等との複合観測による大気現象のメカニズム解明や、気候変動の監視・解析などへの活用の期待が高まっている。同衛星については、2011年の春季大会でも専門分科会を実施し、活発な議論が交わされた。その後も、同衛星データの利用を想定した研究や技術開発が着実に進展している。衛星の実利用が目前に迫った本大会でも、同衛星についての最新の情報を提供するとともに、これまでの研究成果や今後の利用計画を俯瞰し、同衛星が果たすべき役割について幅広く議論したい。

コンピーナー：別所康太郎（気象庁気象衛星センター）、石元裕史（気象研究所）、岡本幸三（気象研究所）、瀬古弘弘（気象研究所）、中島孝（東海大学）、本多嘉明（千葉大学環境リモートセンシング研究センター）、眞木貴史（気

象研究所）、三好建正（理化学研究所計算科学研究機構）

ブリューワー・ドブソン循環研究の現状と今後の展望

日時：大会第1日（5月21日）09:45～11:45

場所：B会場

趣旨：成層圏ブリューワー・ドブソン循環（BDC）の発見は1950年代に遡るが、近年の気候研究においてその重要性が再認識されている。非常にゆっくりとしたBDCを直接観測することは困難であるため、その詳細な構造については不明な部分が多い。BDCは、自然変動だけでなく、温室効果気体の増加に伴い長期的に変動している可能性も指摘されている。BDCの形成・変動要因を説明するために、理論的・数値モデル研究も進められているが、各種大気波動の役割や、対流圏循環との相互作用過程など、様々な要素を考慮し包括的な理解を得ることが望まれている。本分科会では、BDCの形成・変動に関するこれまでの知見を集約し、今後の展望を議論することを目的とする。Age-of-air変動、数値モデル・客観解析における表現、3次元構造など、多角的な議論を期待する。中層大気の詳細な現象を対象とする専門分科会「中層大気研究の最前線」と同時開催することで、中層大気研究に関する議論を深める。

コンピーナー：宮崎和幸（海洋研究開発機構）、木下武也（情報通信研究機構）、江口菜穂（九州大学）、小寺邦彦（名古屋大学）、岩崎俊樹（東北大学）

気象庁データを利用した気象研究の現状と展望

日時：大会第1日（5月21日）09:45～11:45

場所：C会場

趣旨：気象庁と気象学会との包括的共同研究契約である「気象研究コンソーシアム」が締結されて7年が経過しました。コンソーシアムでは、数値予報用実況解析、各種数値予報データなどの気象庁モデルの出力データのみならず、海面水温解析値や気象衛星ラピッドスキャンデータなどの最先端の解析・観測データの提供などを通じ、気象研究とその研究成果の社会還元への促進に努めています。また、今後運用予定の高機能静止衛星「ひまわり8号・9号」データなどのビッグデータの研究利用も期待されています。

本分科会では、

- (1) 数値予報の出力データを利用した研究
- (2) 気象衛星ラピッドスキャンデータなど新しい観測データを用いた研究
- (3) 数値予報モデル・データ同化手法の開発と精度向上の研究

などに関する講演を募集し、気象庁データが拓く新しい気象研究について展望します。なお、本分科会への講演申込には、コンソーシアムへの参加の如何は問いません。

コンピーナー：向川均（京都大学防災研究所）、高藪縁（東京大学大気海洋研究所）、佐藤芳昭（気象庁予報部数値予報課）

気象レーダー60年の歩みと将来展望

日時：大会第1日（5月21日）09:45～11:45, 13:45～15:15

場所：D会場

趣旨：1954年に大阪管区気象台と気象研究所において気象レーダーの運用が開始されてから60年余が経過した。わが国の気象レーダーは人間でいえばいわゆる「還暦」を迎えたことになる。本分科会ではこの60年間のわが国におけるレーダーに関する気象学と技術の歩みを振り返るとともに、将来の展望と課題について議論する。

わが国の現業気象レーダーはアナログ方式による台風の監視に始まり、デジタル方式への進化、地形除去機能の付加、データの全国合成などを経て、その成果は精度と革新性において世界に誇るべき「解析雨量」に集約されている。近年ではこれを応用した「土壌雨量指数」などが防災分野で重要視されている。またドップラー機能による空港周辺の低層ウィンドシア監視や各地の竜巻監視が業務化されている。並行して河川管理業務においても気象レーダーが広く利用されるとともに、近年の都市水害の監視を主目的としたXバンド二重偏波レーダーの展開は、わが国における気象レーダーの歴史に大きな節目を与えた。

一方、わが国の気象学研究の発展においても気象レーダーの果たしてきた役割は大きい。特に梅雨期豪雨、北陸豪雪を始めとする各地に大雨・大雪・強風をもたらす対流システム、さらにはアジア・オセアニア各地における対流システムのメカニズム解明において、わが国の大学・研究機関が運用する気象レーダーが大きく貢献してきた。近年では世界をリードする超高速・超高解像気象レーダーの開発がめざましい。

本専門分科会では、わが国における1)気象レーダーの歴史、2)気象レーダーの業務利用、3)気象レーダーの研究利用、4)最新の気象レーダー技術の将来展望、の4のセクションにおいて招待公演及び一般講演を行う。

コンピーナー：石原正仁（京都大学学際融合教育研究推進

センター）、藤吉康志（北海道大学低温科学研究所）、立平良三（元気象庁長官）

地球環境変動観測ミッション GCOM による全球規模の大気・生態系・雪氷・水循環変動観測計画

日時：大会第1日（5月21日）13:45～17:00

場所：A会場

趣旨：宇宙航空研究開発機構は2012年5月に水循環変動観測衛星 GCOM-W を打上げ、2012年7月より高性能マイクロ波放射計 AMSR2 による全球の水循環変動の観測を開始した。また、2016年度には多波長光学放射計 SGLI を搭載した気候変動観測衛星 GCOM-C の打上げを計画している。SGLI は、放射収支や炭素循環等のメカニズム解明を目的として、可視から熱赤外までの放射輝度を全球・高頻度に観測し、植生、大気、海面、雪氷に関する各種物理量を抽出する予定であり、現在、物理量解析のためのアルゴリズム開発や精度検証のための地上観測計画の準備が進められている。本分科会では、GCOM-W のこれまでの観測成果および GCOM-C のアルゴリズム開発状況や打上げ後の検証計画について報告するとともに、気象・気候変動分野における GCOM データの利用可能性について議論する。

コンピーナー：中島孝（東海大学）、本多嘉明（千葉大学）、沖大幹（東京大学）、奈佐原顕郎（筑波大学）、虎谷充浩（東海大学）、青木輝夫（気象研究所）、村上浩、可知美佐子、堀雅裕（JAXA）

中層大気研究の最前線

日時：大会第1日（5月21日）13:45～17:00

場所：B会場

趣旨：新たな測器による観測、高解像度モデルや CCM-Val・CMIP5 モデル実験、新理論の構築、等により、この数年間で中層大気に関する新たな知見が数多く得られている。CMIP5 で成層圏まで含むモデルの割合が格段に増した事や、気象庁全球数値予報モデルが中間圏界面まで含むようになった事にも象徴されるように、中層大気は対流圏と結合し、数日～100年規模スケールの気候変動にとって必要不可欠である。また海洋や熱圏との相互作用の実態も明らかになりつつあり、分野横断的な研究が求められている。今回はこれまで JpGU で開催してきた中層大気全般を扱うセッションを、気象学会に移して開催する。中層大気研究の最新成果を集約するとともに今後の展望について、気象学に関わる広範な分野の研究者と議論したい。なお「ブリューワー・ドブソン循環研究の現状と今後の展望」の内容に焦点を当てた専門分科会は別途開催する。

コンピーナー：河谷芳雄（独立行政法人海洋研究開発機構）、西井和晃（東京大学先端科学技術研究センター）、坂崎貴俊（京大大学生存圏研究所）、佐藤薫（東京大学大学院理学系研究科）

大気と海洋のデータレスキューの現状とその利活用

日時：大会第1日（5月21日）13:45～17:00

場所：C会場

趣旨：近年の気候の大きな変化を科学的により正確に理解し、大きな変化が危惧される将来気候の予測の確度を高めるために、大気や海洋の長期変化を捉えることのでき

る観測データや再解析データが望まれる。過去数百年間に渡って膨大な紙資料の観測データが利用されずに図書館などに眠っている。このような資料を発掘し収集するデータレスキューが国際的に現在精力的に進められている。さらに、観測データが長期に亘って充実している地上の気圧や温度観測を用いて 20 世紀を対象とした大気再解析も行われてきている。これらのテーマについて国内外の研究を紹介・レビューするとともに、歴史的データを活用する今後の気候研究についてのアイデアを見いだすことを本分科会の目的とする。

コンピーナー：財城真寿美（成蹊大）、久保田尚之（海洋研究開発機構）、石井正好（気象研究所）

気候変動が東アジア域気象に及ぼす影響の理解に向けて：マルチ気候モデルデータ解析

日時：大会第1日（5月21日） 15:15～17:00

場所：D会場

趣旨：地球温暖化は地表平均気温を上昇させるだけでなく、大気や海洋の大循環の変化などを通じて、温帯低気圧の経路、台風、豪雨や干ばつの頻度や強度など、様々な大気現象の様相を変化させる可能性があります。特に、アジアに住む私たちにとっては、雨の降り方の変化は、生活の安全や食料生産に直接影響する重要な問題です。

2013 年発表された IPCC 第 5 次評価報告書のために、第 5 次結合モデル相互比較計画（CMIP5）という国際的な研究計画のもと、世界から 50 以上の気候モデルによる実験結果が集められました。本専門分科会では、CMIP5 データ他のマルチ気候モデルデータと最新の観測データを利用した、東アジア域の気候や身近な気象についてモデル再現性と将来変化予測に関する講演を募集します。特に、全球規模の気候変動に伴い東アジア域の四季における様々な現象がどのような仕組で変化するかについて議論の基礎となる研究発表を歓迎します。

コンピーナー：高菘緑（東京大学大気海洋研究所）、尾瀬智昭（気象庁気象研究所）、中村尚（東京大学先端科学技術研究センター）

高解像度全球シミュレーションが拓く新しい気候・気象研究

日時：大会第4日（5月24日） 09:30～11:30

場所：A会場

趣旨：全球モデルの高解像度化は、この 10 年間の計算技術の進歩（地球シミュレータ、京コンピュータ等）により飛躍的に進みました。現在では、全球非静力学モデル NICAM を用いた水平解像度 14 km の気候シミュレーションが実現し、その解析結果が出始めています。ポスト「京」時代が間近となり各方面の議論が進められていく中で、今一度サイエンスとしての新しい課題を具体的に議論し、その先の展開を眺望する場を設けたいと思います。募集講演では、現在までの高解像度全球シミュレーションから「何が得られ」、今後の高解像度全球シミュレーションによって「更に何を追究したいか」、そのために全球モデルをどう発展させるべきか、等をご発表頂きます。大気・海洋・陸面・化学など多様な分野から、若手を含む多くの皆様の自由闊達なご議論を期待します。

コンピーナー：那須野智江（海洋研究開発機構）、梶川義幸（理化学研究所）、釜江陽一（国立環境研究所）、小玉知央（海洋研究開発機構）、佐藤友徳（北海道大学）、佐藤正樹（東京大学大気海洋研究所）、富田智彦（熊本大学）、水田亮（気象研究所）

山岳域の気象・気候および環境への影響

日時：大会第4日（5月24日） 09:30～11:30

場所：B会場

趣旨：山岳域は、空間スケールや広域循環場などに応じ、気象に対して様々な影響を及ぼす。近年は、地形に依存した気象災害もしばしば指摘されている。本セッションは、2010 年春の大会で企画した同名のセッションを継承し、山岳域に関わる大気陸面相互作用から防災対策まで幅広い分野の研究展望を横断的に議論する事を目的とする。山岳域を中心とした近年の気象観測・解析・シミュレーション研究のほか、生態系や雪氷現象に関連する内容も含む。

コンピーナー：上野健一（筑波大学生命環境系）、玉川一郎（岐阜大学流域圏科学研究センター）、筆保弘徳（横浜国立大学教育人間科学部）、川瀬宏明（気象研究所環境・応用気象研究部）

公開気象講演会のお知らせ

参加は無料です。

日時：2015 年 5 月 24 日（日）（大会第 4 日）13:30～17:00

場所：つくば国際会議場 大会議室 101（大会 A 会場）

テーマ：「気象情報のビッグデータ時代の幕開け」

主催：公益社団法人日本気象学会 教育と普及委員会

後援：気象庁・公益社団法人日本気象学会 気象研究コンソーシアム、一般社団法人日本気象予報士会

趣旨：日本気象学会 2015 年度春季大会の開催に併せて、一般市民の方々に気象に関する最近の研究成果や関心の深い事柄について解説することを目的として公開気象講演会を開催します。今回は、「気象情報のビッグデータ時代の幕開け」を取り上げます。気象学の発展には、

気象観測データや衛星データ、数値モデルのアンサンブル予報データなどの大規模気象データをリアルタイムで扱う IT 技術のインフラ整備が欠かせません。これまで、リアルタイムの気象データは、気象業務支援センターや気象研究コンソーシアムによるサーバーを介して研究者や事業者へ配信されてきましたが、2014 年秋に打ち上げられた「ひまわり 8 号」による超高解像度・高頻度の衛星画像の登場により、データ量が桁違いに増大し、気象業界にもビッグデータの時代が目の前に迫りつつあります。そこで、今回の講演会では、先端気象情報として、次世代のひまわり画像、瞬時に大気状態を把握

可能なフェイズドアレイレーダー, 今後の発展が期待されるドップラーライダー観測網, 巨大化する数値予報アンサンブルデータ同化などを題材にして, 気象情報のビッグデータ時代の幕開けとそのビッグデータを濃縮して社会に伝える気象キャスターの対応策などについて, 分かりやすくご紹介します. ふるってご参加下さるようお願いいたします.

テーマおよび講演者:

1. 「ビッグデータ時代の将来展望」
林 祥介 (神戸大学)
2. 「新しい気象衛星ひまわり 8 号の概要」
別所康太郎 (気象庁気象衛星センター)
3. 「豪雨の 3 次元構造を高速に捉えるフェイズドアレイ気象レーダー」
佐藤晋介 (情報通信研究機構)

4. 「ビッグデータ同化による天気予報革命」
三好建正 (理化学研究所計算科学研究機構)
5. 「局地的豪雨の早期予測技術開発ー積乱雲の一生の観測にむけた観測ネットワークー」
清水慎吾 (防災科学技術研究所)
6. 「ビッグデータ時代の天気予報」
井田寛子 (NHKニュースウオッチ 9 気象キャスター)
7. 「パネルディスカッション」
司会 余田成男 (京都大学)
総合司会 小寺裕之 (気象庁)

問い合わせ先: 小木昭典 (教育と普及委員会)

TEL: 03-3212-8341 (内線 4148, 気象庁環境気象管理官室内)

E-mail: a-ogi@met.kishou.go.jp

研究会のお知らせ

何れも参加は無料・事前の申込も不要ですので, 興味のある方はご自由にご参加下さい.

第43回メソ気象研究会

日時: 2015年5月20日 (水) (大会前日) 13:30~17:00

場所: 気象庁講堂 (東京都千代田区大手町1-3-4)

テーマ: 「短時間強雨予測への挑戦」

コンピーナー: 加藤輝之 (気象研究所)

内容: 昨年8月20日未明に広島で発生した大雨事例に代表されるように, 大雨が引き起こす土砂災害等により多数の人命が失われてきています. このような大雨を事前に予測することは防災対策として必須で, そのためには数値予報モデルの予報精度向上に加えて, 実況の観測データを主体とした運動学的予測 (ナウキャスト) の改善を行っていく必要があります. 特に都市域では局地的に短時間に降る強雨により, 中・小河川の越水や鉄砲水, 低平地での内水氾濫が複数発生しています. そのような短時間強雨も視野に入れ, 気象庁では昨年8月から国土交通省XRAINのデータも活用した水平分解能250mの高解像度降水ナウキャスト (30分の予測まで. その後1時間までは水平分解能1km) を開始しました. このプロダクトの説明に加えて, 今回のメソ気象研究会では, 短時間強雨予測に対する取り組みを行っている方に講演を依頼し, 話題提供をしていただくことにしました. 多くの方々のご参加と活発な議論をお願いいたします.

プログラム:

- 13:30-13:40 趣旨説明
- 13:40-14:10 「気象庁の高解像度降水ナウキャストについて」
未定 (気象庁関係者)
- 14:10-14:40 「局地的大雨の観測から予測へー積乱雲の一生の観測と発達予測ー」
岩波 越 (防災科学技術研究所)
- 14:40-15:10 「ゲリラ豪雨の早期探知と危険性予測」
中北英一 (京都大学防災研究所)
- 休憩
- 15:30-16:00 「「ビッグデータ同化」でゲリラ豪雨に挑む」
三好建正 (理化学研究所)

16:00-16:20 「上流下層加湿による短時間降水予測と対流初期構造の定式化」

若月泰孝 (筑波大学)

16:20-17:00 総合討論

世話人: 坪木和久 (名大地球水循環), 加藤輝之 (気象研究所), 小倉義光 (東大大気海洋研)

連絡先: 加藤輝之 (気象研究所)

E-mail: tkato@mri-jma.go.jp

注意事項: 講堂でのご飲食はご遠慮ください. トイレは1Fをご利用ください (名札を提示されるとゲートを通してもらえます).

極域・寒冷域研究連絡会

日時: 2015年5月21日 (木) (大会第1日) 17:15~2時間程度

場所: 中会議室202 (2F) (大会D会場)

テーマ: 極域気象研究を考える

趣旨: 今回は, 日本の極域研究に長年ご尽力いただいた国立極地研究所の山内恭氏による特別講演会を行います. 南極地域観測事業やGRENE北極気候変動研究事業など, 大型極域観測研究の立案に幾度も貢献されてきた山内氏は, 両極から極域研究を時間を追って俯瞰できる数少ない研究者です. 折しも2015年度は, 両極における大型研究プロジェクトの節目の年. 日本気象学会のオゾンホール問題や日本の北極研究における省庁間の確執に触れながら, これまでの日本の極域研究プロジェクトの歴史を振り返るとともに, 今後の極域研究の在り方を考える機会としたいと思います. 飛び入りの話題提供・問題提起等も歓迎致します. 「極寒連の系譜と極域気象研究」

山内 恭 (国立極地研究所)

問い合わせ先: 猪上 淳 (国立極地研究所)

TEL: 042-512-0681, E-mail: inoue.jun@nipr.ac.jp

オゾン研究連絡会

日時：2015年5月21日（木）（大会第1日）18:00～2時間程度

場所：つくば国際会議場 404会議室

テーマ：「大気オゾンをめぐる研究の諸課題—私達が解決したいこと—」

内容：このたび世話人が交代し、期を新たに「オゾン研究連絡会」を開催してゆくこととなった。その初回として今回は、対流圏・中層大気オゾンとそれらが関連する物質の化学・輸送・循環に関する研究で、現在重要となっている課題を改めて俯瞰的に整理し、我々が取り組むべき研究について議論する場としたい。その際、オゾンが持つ化学気候相互作用のために、短寿命気候汚染物質 (SLCP) の一種として近年注目されている点や、衛星観測が飛躍的に向上し、中層大気だけでなく対流圏オゾンについても分離導出可能となってきた点についても焦点を当てたい。さらに、物理化学的過程に加えて、陸域生態系や海洋などを含む地球システムのなかでのオゾンの役割についても議論を深めたい。その中で、次回以降の連絡会でのトピックスの選定などに関する本連絡会の方向性を見出していくこととしたい。

プログラム：

1. 「対流圏化学と衛星観測」 40分
金谷有剛（海洋研究開発機構）
2. 「大気化学・気候モデリングと短寿命気候汚染物質 (SLCPs) 予測における課題」 40分
須藤健悟（名古屋大学）
3. 「中間圏・下部熱圏領域における大気微量成分の化学—成層圏化学との違い—」 10分
笠井康子（情報通信研究機構）
4. 「大気組成変動研究における衛星観測と数値モデルの統合利用」 10分
宮崎和幸（海洋研究開発機構）
5. 「全体討論」 20分

世話人：林田佐智子（奈良女子大学）、笠井康子（情報通信研究機構）、金谷有剛（海洋研究開発機構）、高島久洋（福岡大学）、宮崎和幸（海洋研究開発機構）

連絡先：宮崎和幸（海洋研究開発機構）

E-mail: kmiyazaki@jamstec.go.jp

ジュニアセッションのお知らせ

関係者の大会参加は無料です。

日時：2015年5月23日（土）（大会第3日）11:30～13:30

場所：つくば国際会議場（ポスター会場）

主催：公益社団法人日本気象学会 教育と普及委員会・講演企画委員会

趣旨：天気予報は、私たちの日常生活に、もはや欠かせないものとなっています。この天気予報技術を支えているのが気象学です。日本気象学会は、気象学に興味を持つ主に高校生・高専生（中学生も可）を対象に、春季大会においてジュニアセッションを開催します。本企画は、生徒たちが気象学会の大会会場において、専門家の前で発表体験をする機会を設けることを主な目的とします。したがって、研究内容の優劣を競うことを主目的とはしておりません。この企画により、生徒たちの気象学に対する興味や探究心が高まれば、学会としての社会貢献にとどまらず、将来の気象学の発展と、より豊かな社会の招来に繋がるものと期待しています。

発表資格：高等学校、高等専門学校（1～3学年）に在籍の生徒、または、高校卒業後1年以内の個人または団体（グループ）とします。また、中学生も可とします。

発表内容・形態：発表は全てポスターとします。気象・気候

や大気科学の観測・研究に関することであれば、広く発表を認めます。

申し込み方法：申し込みは日本気象学会ホームページから2015年1月5日から同年4月3日に行われました。申し込み用紙の他、発表内容を要約した予稿（A4判1枚）の添付が必要です。受理通知は同年4月中にメールでお知らせしました。

参加特典：

1. 発表者の全員に対し、学会発表認定証を発行します。
2. 日本気象学会ホームページに発表要旨などが掲載されます。
3. 春季大会における各種セッション、シンポジウム、講演等を、無料聴講できます。
4. 発表者は、専門家による質疑やコメントを通じて、研究の要領やヒントを得、また参加者同士の交流を深めることができます。

問い合わせ先：公益社団法人日本気象学会 教育と普及委員会
東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内

TEL: 03-3216-4403, Fax: 03-3216-4401

E-mail: msj-ed_2015@netsoc.jp

大会期間中の保育支援について

大会実行委員会では、大会中の保育施設利用料の一部補助を行います。保育施設として、下記2件を紹介いたします。

1. チャイルド・クラブ・パンセ

〒305-0051 茨城県つくば市二の宮 1-21-3

グランドパレス NS-1 102号・106号

TEL: 029-861-1500, FAX: 029-861-1700

<http://www.childclub.e-tsukuba.jp/index.htm>

2. キッズハウスつくば

〒305-0051 茨城県つくば市二の宮 1 丁目 24-8

パルシャスつくば 1F 101 号

TEL: 0120-38-8373

<http://www.kids-house.jp/>

利用料金等は、各ホームページを確認下さい。

両施設は大会会場近傍にあり、関東鉄道バス「学園南循

環」路線の「二の宮一丁目」バス停が利用可能ですが、便は余り良くありません。

上記の施設、及びそれ以外の保育施設の利用等も含め、保育支援を希望される方は、2015年4月16日（木）までに下記担当者までご連絡下さい。それ以降の問い合わせにも極力対応させていただきます。

連絡先：菅田誠治（国立環境研究所）

TEL: 029-850-2457, E-mail: sugatas@nies.go.jp

リクルートブースの設置について

ポスター発表が行われる場所に隣接して、会場内にリクルートブースを設ける予定です。これは、民間企業から適職に出会うための機会を提供して頂き、気象学会に所属する大学院生や有期雇用研究者との間での情報交換を通じて、彼らのキャリア形成をサポートすることが目的です。参加予約手続きは不要です。ブースでは、ポスター発表時間および昼休みにのみ、企業担当者が対応します。

リクルートブースに出展予定の企業は以下の通りです（2015年4月1日現在）。*の企業は5月23日（土）と

24日（日）、それ以外の企業は21日（木）と22日（金）の開設を予定しています。

いであ株式会社

国際気象海洋株式会社*

日本気象株式会社

一般財団法人日本気象協会（展示ブースに併設）

ペンギンシステム株式会社

（五十音順）

秋季大会の予告

2015年度秋季大会は、2015年10月28日（水）～30日（金）に京都テルサで開催される予定です。